

CDC™ Executive Program

III. 経営者の人間力

0. 人の真の存在の奥義

Esoterica to be True Being

～ 勇気と情熱が蘇り革新が起こる ～

コーポレート ダイナミクス コーチング™

エグゼクティブ・プログラム

Vol. 21

経営者の人間力 - 5つの底力と奥義 -

人間力

(真の存在を生きる)

人を育む

(育成力)

生み出す

(創造力)

現実にする

(実現力)

大局を掴む

(俯瞰力)

突き抜ける

(突破力)

CDC™ Executive program

勇気づけのリーダーシップ

ヒューマン
スキル

自分軸

リソースフル

立場力

伝わる力

理論

(仮説)

創造的自己

(自己決定性)

目的論

全体論

対人

関係論

現象学

(認知論)

思想

共同体感覚 (ヨコの関係)

①自己受容

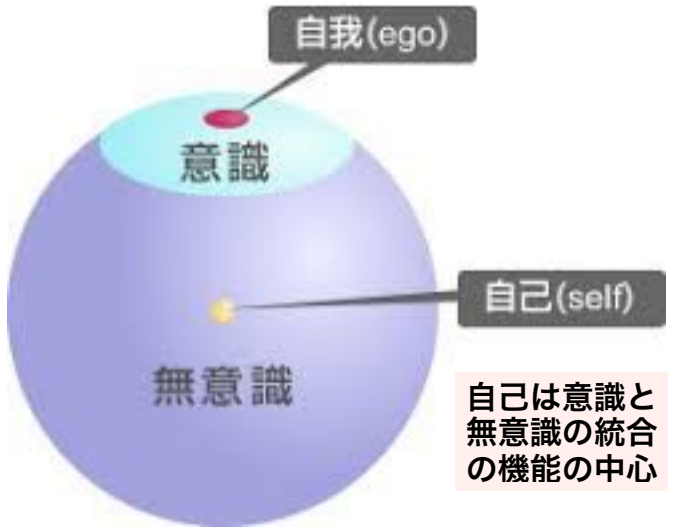
②他者信頼

③貢献感

経営者の人間力 - 5つの底力と奥義 -



真の存在 (True Being) を生きる



自己実現 (self-realization) → 人生の究極の目的
(= 個性化の過程 (individuation process))

- 個人に内在する可能性を実現し、その自我を高次の全体性へと志向させる努力の過程
- 自分自身になりきる [内的・主観的な総合の過程] と同時に、自分だけのことではなく、他者との繋がりを有する[客観的關係の過程]

自己実現の過程では自我の役割が重要

- まず自我を相当に強化し、その強い自我が自ら無意識の世界に対して門を開き、自己との相互的な対決と積極的な協同態勢によってこそ、自己実現の道を歩むことができる
- 人生の前半は「自我」実現を目指し
人生の後半は「自己」実現に取り組む



ユング Carl Gustav Jung
1875年 - 1961年



河合 隼雄
1928年 - 2007年

自己実現の鍵「無意識」へのアプローチ

1. 無意識：意識と無意識 / 顕在意識と潜在意識

※ 変性意識（トランス）状態において無意識にアクセス可能

瞑想や催眠時の状態：クリティカルファクター(意識と無意識の境界)が緩い

| 脳波の種類 | 周波数 | 状態 | 脳波形 |
|---------|---------|-----------|---|
| δ デルタ波 | 1～3Hz | 就寝中 |  |
| θ シータ波 | 4～7Hz | 目覚めの状態 ※ |  |
| α アルファ波 | 8～13Hz | リラックス状態 ※ |  |
| β ベータ波 | 14～29Hz | 日常活動 |  |
| γ ガンマ波 | 30～80Hz | 怒り・興奮状態 |  |

2. 脳：意識と脳、記憶と脳

■ 意識と脳

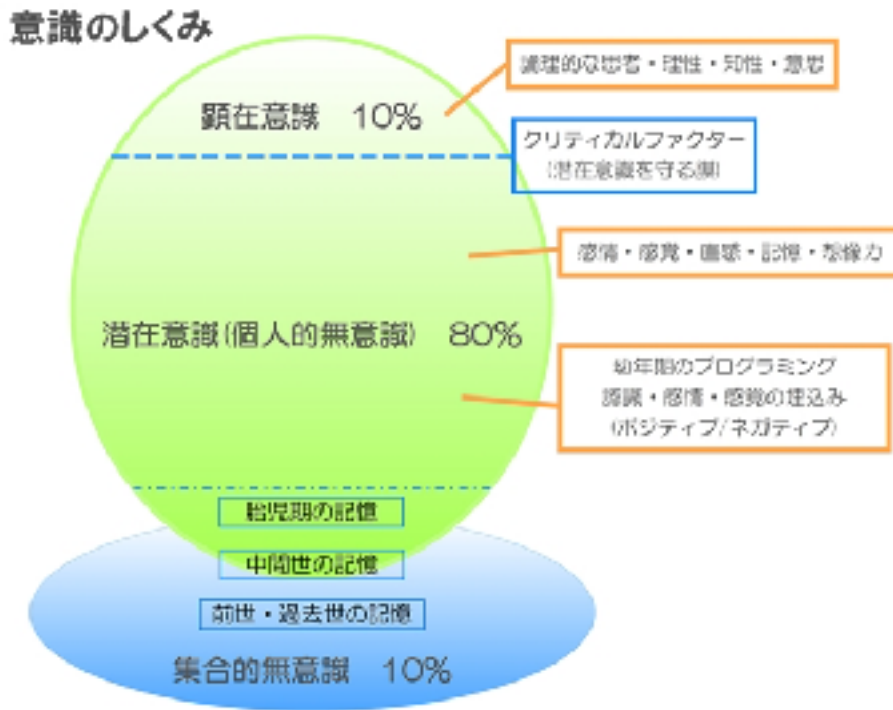
・ 顕在意識 - 大脳新皮質 (新しい脳, 理性の記憶) ・ 潜在意識 - 大脳^{へんえんけい}辺縁系 (古い脳, 情動の記憶)

■ 記憶と脳

【側頭葉】記憶の記銘・想起 【海馬】覚えた内容を忘れない働き。情動の記憶を蓄える。

【扁桃核】恐怖感が蓄えられる。神経細胞が活発になると情動を生じる。嵩じると「うつ」を発症。





出典：イートハーブクリニック催眠センター

クリティカルファクター

顕在意識と潜在意識を分ける膜。

この概念を発見し提唱したのは、A B H (米国催眠療法協会) 創始者のクラズナー博士です。

クリティカルファクターは、外的影響から潜在意識を守ってくれている大切な膜ですが生まれてから幼児期まではありません。8歳頃に出現しはじめ、20歳頃に完全に完成します。

幼少期～10代はクリティカルファクターが不完全で常に潜在意識が開きっぱなしである為、周囲からのありとあらゆる出来事から無防備な状態にあり良いことも悪いことも潜在意識にそのまま入ってしまっています。